

8月21日には野球部が秋季大会播磨地区2回戦に臨み、加古川南高校に16-0で勝利をおさめ、県大会出場を決めました。



同じく21日からは兵庫県高等学校ユース陸上競技選手権大会(新人大会)が行われました。昨年度まで男子総合3連覇中の本校

は今年も連覇を狙いました。初日、ベスト記録は出すものの近畿大会出場の3位以内に入る選手が出てこず、苦戦を強いられましたが、2日目1年円盤投で山口選手が優勝(3日目1年男子ハンマー投と合わせて2冠、1年優秀選手となる・写真左)、2年走高跳で樺田選手が優勝(写真中)、1年男子100mで藤原選手が優勝(写真右手前から2人目)と元気を取り戻し、3日目につなぎ大逆転での4連覇達成となりました。最終日の4×400mリレーも予選ではうまく走れなかった選手が素晴らしい走りを見せて2位に入るなど最後まであきらめない姿勢を見せたようです。選手の皆さん、顧問の先生方、総合優勝おめでとうございます。

8月24日、2学期の始業式です。この日も熱中症対策として放送による形式をとりました。終業式での話の振り返りとともに、新型コロナウイルス感染防止に関しては、今一度気を引き締めて予防に努めてほしい旨を話しました。また、徳川家康の「得意絶頂の時こそ隙ができることを知れ」という言葉から「調子の良い時には何でもうまくいくことが多いが、自分の力だけでなく、周りの協力や支えに感謝の気持ちを持てなければ、隙ができ周りの人が離れて転落する」ことを知り、感謝の気持ちを忘れないという説明をしました。また「己を責めて人を責めるな」という言葉からうまくいかないことがあっても人のせいにはしないこと、「怒りは敵と思え」という言葉からは、心に余裕を持ち、怒りの心を持たないようにすることで冷静な対応がいつもできるようになることを説明しました。そのことから周りへの感謝の気持ちを持ち、自分自身の振り返りをすることが大事で、そのことが自分自身を磨くことになるというまとめから、面接練習や進路選択の場面でしっかりとした振り返りをして、自分の進むべき方向性を確認する学期にしようという話をしました。式辞や全校集会の話では生徒が知っている人の残された言葉からその時に適切だと思うことを使って話をして、大切なことを伝えようと思っています。どれか一つでも参考になったり、理解できて実行できたりすることがあれば嬉しいです。いつも話をしながら自分にも言い聞かせている次第です。こんな話をしてほしいということがあればリクエストしてください。よろしくお願いします。

ここで少し熱中症に関連した話をしておきます。各学校では熱中症指数計を使用して決められた時間に計測を行い、その日の活動の注意を促すこととされています。写真左の指数計を使用し、本校では体育館、保健室、職員室に設置、9時と12時に養護教諭が計測し、記録を職員室の黒板にある表に書き込みレベルを表示することにしています。この指数は、気温、湿度、輻射熱を1:7:2の割合で換算したもので、湿度が7割も占めることになっています。7月末の梅雨明けから一気に暑くなり、新型コロナウイルス感染とともに心配されることとなっています。この指数は、28度(気温の目安は31度)を超えると写真右の表示にあるように嚴重警戒となり、31度(気温の目安は35度)を超えると危険という表示になります。先の予測も出されていますが、今週は厳しい暑さが続くようです。午前中授業とはいえ部活動等もありますので、こまめな水分摂取と休養をしっかりとりながら体調管理に努めてください。よろしくお願いします。

陸上競技部近畿ユース大会出場

1年 100m・200m 藤原
110mH・400mH 三和
110mH 西田
400mH 酒井
走高跳 大和田
三段跳 田中
円盤投・ハンマー投 山口
2年 100m 森永
110mH・400mH 宮野
走高跳・三段跳 樺田
4×400m 2年 藤本・三浦・森
1年 酒井・西村・藤原

